

第2回社協八木山連合支部福祉懇談会議事録

(案2回覧版)

日時：9月9日(土) 午前9時30分～

場所：つつじが丘ふれあいセンター

(出席者)

支部長、副支部長、福祉推進員、鶉沼中学校先生、小学校PTA代表、民生委員、主任児童委員、近隣ケア代表
つつじが丘シニアクラブ、松が丘自治会福祉担当、つつじが丘福祉委員、事務局

参加者25名

- A：本日は、お忙しい中、福祉懇談会に参加くださりありがとうございます。福祉懇談会は、地域で福祉に携わる方々に情報を共有して頂き、また課題を出していただく機会にさせていただければと思います。活発な意見交換をしていただければと思いますのでよろしくお願い致します。
- B：福祉懇談会はAさんがおっしゃったとおりの情報や課題を挙げてもらって共有化を図るのが目的ですから、皆様よろしくお願い致します。
- A：松が丘では福祉ネットワーク準備委員会が今年度立ちあげられました。またつつじが丘では福祉委員を中心に昨年度以上にネットワークを強化していこうという動きがあると聞いています。その辺りについて教えていただけますか。
- C：昨年度の松が丘自治会連合会長の『向こう三軒両隣 ネットワーク確立に向けて』の提言、そして総会を経て、松が丘では8月に福祉ネットワーク準備委員会が開かれました。2回目は9月18日に予定されておりますが、市からプラン、手引をいただき、ネットワーク確立に向けて準備委員会の概念図、声かけ活動の在り方、防災マップ等を参考に近隣ケアと自治会との連携、民税委員との連携について今後詰めていく、そういう段階にあります。
- D：私はつつじが丘で福祉委員をしております。近隣ケアの仕事は地道な仕事だと感じています。このような地道な活動を通じて、何か問題が発生した時には適切に対処していく、そういう体制作りができるように勉強できたらと思っています。
- A：近隣ケアとの連携がネットワーク作りでは重要と感じましたが、近隣ケアの立場としてはどうですか。
- E：近隣ケアに急にスポットが当てられるのもどうかという戸惑いがあるのが正直なところですよ。
- F：私たちの仕事はもっとも高齢者に近くにある見守り活動であって、それ以上求められることは負担。近隣ケアに限らず、高齢者を見守るという活動というか行動が近隣ケアに登録しなくても、そういう気持ちが広がっていくことが大事。
- G：確かに現状以上を求められることは近隣ケアにとって負担。町内によっては、きちっと近隣ケアさんから連絡があって、ケア員からリーダーにと状態について、体調や今は留守だとかといった情報までもきめ細やかに把握されている方もある。
- F：自治会の役員がもっと認識し、協力してもらって、そういう意識を広げる方向にもっていつ

てほしい。

A：自治会の役員が一年の任期中、近隣ケアをお手伝いするという話をしても、近隣ケア内では中途半端ならやってほしくない。という意見もあると聞いていますがどうですか？

H：自治会の役員になると1年間は業務に追われてしまって冷静にいられなかったりする。でも1年経つとゆったりと見られるようになる。つつじが丘の1丁目で実践しているように2年目も自治会活動に携わるようにもっていったらもらえればと思う。

F：みんながみんな残ってもらえなくていい。それぞれの事情がありますから。少しでも残ってもらえればと思います。

C：昨年度のつつじが丘統一自治会長が言われた10年後のこの地域は40%が高齢者になる高齢者の街になってしまう。高齢化が進む現状を目の当たりにしては、やっぱりそれを捉えた動きをしていく必要があると思う。近隣ケアの活動は平成元年から始まったと聞いています。活動を始めて20年になる。いざという時に誰がどのように動くのか、今後、出ないとも限らない孤独死を無くそう、そのためのネットワーク作りをしていく必要があると思うのですが。

I：全くCさんの言われることに賛成です。町内全体が向こう三軒両隣を意識して生活していく。そういう街づくりをしていくことについて、どこがその方向性を示して行くのか。そして近隣ケアの活動について、地域差がなくなるようにしていくことも重要。自治会にしても社協にしてもいっぺんにはできない。連携と方向性を継続的に示していくことが大事。

J：つつじが丘を見渡してみても高齢者が多くなってきたという印象がある。近隣ケア、いこいのつつじ、シニアクラブとこのような活動に関わる方々は、その団体、仲間の中で健康状態などがある程度把握されている。しかし、活動に参加されていない高齢者が沢山みえる。活動に参加してもらうようにするにはそれぞれの団体の活動を魅力的なものにしていく必要があると感じる。仲間を増やそうとする度に支障になるのは守秘義務の考え方である。以前は民生委員の立場として尋ねにいけば多くのことは教えてもらえた。しかし今はそんな状況にない。情報収集が非常に難しくなっている。何か起きた時、地震などの天災の時などはだれもが支えられる側の対象となる。よって裾野を広げていく活動に力点を置くようにする必要を感じます。

A：自治会の役員の立場からはどうですか。

K：福祉というと老人、特に独居の方とその状況に準じる方のケアについてが自治会の福祉と考えます。役員の立場からすると、そのような問題、認識、責任感について希薄ではないかと思う。どうしたら高めることができるのかと考えるが非常に難しい。自治会における福祉サービスは、需要と供給がアンバランスなのではないか。歯車があっていない印象。

A：こちらサイドがいいと思って実行しても、受け入れてもらえない。やろうと思って拒否される。そういうことはありますね。

F：相手からしてみると、やっぱり最初は警戒から入るのです。事あるごとに声を掛け、根気よくコミュニケーションをとっていく姿勢が大事。相手が人間であるわけだから。

H：介護保険サービスを受けている方の場合、それがネックになるケースもある。我が家にはケアマネージャーが来てくれるから、地域の福祉は必要ないという態度を示される場合がある。

A：今日は、中学校、小学校から先生やPTAの方に来ていただくことができました。先生方の意見をうかがえたらと思います。

L：地域の福祉活動について十分つかんでいない中で意見を出すのは難しいですが、中学校では何ができるのか、地域のつながりの中でどんな役割が果たせるのかということは難しいと感じています。みなさんの言われるとおり、地道な活動を通じてそれを広げていくのが大事かと。中学校では現在のことだけではなく、10年後、20年後に生徒たちが地域に戻ったときに戦力になる人材となるという意識、地域に対する意識が必要ですが、この地域の子どもたちは他の地域に比べてそういう地域に対する意識が深いように感じています。

年末に独り住まいのお宅を訪ね、掃除の手伝いをするという活動をする心ある生徒もある。こういう生徒の意識を広げていきたいと思っています。子どもの保護者も将来のことを見越してこのような会議が開催され真剣に議論していることについて知らないのではないかと思う。保護者自身もその気になって外に出すという意識が必要なのではないかと感じました。

M：小学校としましては、この地域にいろいろな団体があって地域の福祉活動に活躍されるのは知ってはいますが、どのように連携していったいいのかはわからないというのが現状です。小学校が行う福祉活動としては、ボランティアハウス訪問や高齢者宅訪問したりします。

H：高齢者宅の訪問は、交通安全推進活動の一環で靴のかかるとに貼る反射シールなどを持って事前に決められたお宅に訪問するという活動です。

I：中学校が行う年末の高齢者宅の清掃活動について、広げていきたいなという思いがあります。活動の中身として上手くできるかどうかは別問題ですが。

J：今日の先生のお話をうかがい、学校側の意識、思いを知ることができた。今までは無理をして受けても長続きしないという考えがあった。しかしこの機会があったので、つつじが丘シニアクラブとしても今後打合せをして、お話をさせていただきたい。

L：実際に活動につなげようとするといろいろな問題がある。ボランティアに対する意識の高い子が活動をするが、学校全体で20人位の人数しか集まらない。実際の活動も地域のゴミを拾おうという活動を1回しただけにとどまる。

G：高齢者世帯ではゴミをステーションなどに出しに行くのも大変な方がある。登校途中に中学生がそのようなお宅の前からゴミをもっていくという活動をしてもらえたら非常に助かる方がいると思うのです。

L：できそうな活動かもしれませんね。

C：先ほどの年末の中学生の清掃活動についての窓口については、まちづくり協議会に担ってもらいたいと考えますが。

J：まちづくり協議会が担うのは反対。教育という的を絞った活動であるわけだからそのような広がりをもたさないほうがいい。

I：全体を把握しながら活動に取り組むことができるという点でまちづくり協議会がいいと思います。

B：まちづくり協議会はもともと青少年育成を目的にして発展していった経緯があるので、まちづくり協議会が受け手となる考えもあるが、ここで決めるというのではなく、一つの提案として受けることにしたいと思います。

F：両自治会の福祉に対する意識について意見を言いたいです。現在の自治会の活動をみると、行事に追われてこなすのに精いっぱいになっているのではないか。この状況では福祉について取り組めないのではないか。来年度の計画に福祉について自治会としてはこのように動くというのを最初から全面に出してやっていってもらえればと思うがどうですか。

- C : 今の意見については、松が丘では総会で「向こう三軒両隣のネットワーク」づくりをしていこうという取り組みをし始めました。準備委員会も立ちあがって機能的に動き出している。
- N : 班長、組長の活動について。班長＝近隣ケアの一員として、機能させていくことが可能だと思うし、実際すでに機能していると思う。しかし集金が以前は3ヵ月に1回だったペースが、6ヵ月に1度になった。何かの機会があって、顔を合わしていく、コミュニケーションをはかることができるのに機会を縮小させていくのはどうかと思う。
- O : 集金に代わる方法、接点を持つ方法を模索する必要があります。社会福祉協議会が主体的に福祉活動の担い手として実践することはできないが、今日のみなさんの話をうかがって、次のことを感じました。私は福祉について専攻したものの、当時、熱心に学習していませんでした。そんなある時、教授から福祉を消滅させることが福祉につながるんだと言われたことがあります。私の勤める施設では敬老会は子どもたちが中心になって高齢者を招いて行っています。普段からこのような繋がり、関わりがあります。特別な何かをするのではなく、自然に関わり、見守り見守られという関係が築かれていく。このような機会がこの地域にも広がっていけばと思います。

以上